

ハイスクールDxD 仮面ライダーコール

マーセナリー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある青年は悪魔を憎み、己の闇悪魔と契約する

「行くぞ、コール」

『アア………!』

「変身!」

目次

コール現る、悪魔狩る！	1
墮天使と戦闘、コールは激昂!?	5
設定資料	9

コール現る、悪魔狩る！

駒王町……そこではとある噂が流れていた。それは廃墟や廃工場などが寄り付かない所に現れる怪物を仮面の戦士が倒していると言う噂……

助けられた人達は皆口を揃えてこう話していた『仮面ライダーが助けてくれた』と……。

「……この作品……中々良いセンスだな、このラストのシーン、伏線が張られているな。」

駒王学園……元々は女子校だったが去年から共学化され男子生徒も通っている高校。

そこに通う『契ちぎり 竜胆りんどう』は静かに本を読みながら授業を終え、そのまま家にへと帰ろうとしていた。

「お！ちようどいい所に！竜胆！これから元浜と松田で女子更衣室を覗きに行こうと思うけど……お前も来るか？」

「誰がそんな阿呆な誘いに乗ると思うか。てか、朝剣道部にしばかれて懲りたと思っていたが……」

「俺たちがその程度で覗きを辞めるわけないだろ！」
「自信満々に言うなよ……」

帰ろうとしていた竜胆を悪友であり学園の問題児の一人である『兵藤 一誠』に呼び止められ覗きの誘いを受けたが、呆れながらも一誠の誘いを断った。

兵藤 一誠は元浜、松田という生徒と共に覗きなどをしているため女子生徒達から『変態三人組』と呼ばれている。

「性格はいいんだけど……あんな馬鹿な行為をしなければモテていたけどなく」

「待ってください契君」

一誠の行動に呆れながら生徒玄関に向かって歩いてしていると黒髪のメガネをかけた真面目そうな女子生徒によって呼び止められた。

この女子生徒の名は『支取蒼那』この学園の生徒会長であり竜胆が最も苦手とする存在でもある。

「げ、生徒会長さん……」

「げっとはなんですか？げっとは」

「あ、いやその……これは……」

「まあいいでしょう……それよりまた授業をサボったそうですね？」

「ん!?な、なんでそれを……」

竜胆も竜胆でこの学園の問題児であり授業をよくサボることから教師や生徒会長である支取にマークされている。

今、竜胆が驚いているのはなんでサボっている事がバレていたのか。今回は担任にもバレずにサボることが出来たのに何故この生徒会長は知っているのだろうか……。

「私の目は誤魔化しませんよ?ちゃんと説教を受けてもらいますから覚悟してくださいね」

「きよ、今日はこれから用事がありましたー!」

「問答無用です」

何とか言い訳をし説教から逃げようとした竜胆だったが、それも虚しく支取によって生徒会室に連行されてしまった。

「グソっ……バレずに本を読みあされるエデンは無いものか……」

『中々ソナ場所ハ存在シナイダロウ。』

生徒会室での説教を終えた竜胆はそのまま帰り道を歩いていると、頭に何者かの声が響いてきた。

「そうだが、で何の用だ?コール」

傍から見たら独り言かのように見えるため、竜胆は人が居ないことを確認しながら、自身に語りかけてきた存在「コール」と話す。

『ハグレ悪魔ダ、アノ愚者ガ来ル前ニ、サツサト始末シニ行クゾ。』

「えく、パスは無しか?」

『ナシダ、私ダツテ腹ガ減ツテイルンダ、サツサト帰ツテ準備シロ。』

「はいはい、りよーかいしましたよく。」

竜胆はコールに促されるがまま、面倒くさそうに返事をし自宅に帰る。

深夜の廃工場

人っ子一人いない廃工場からナニカが出てきた。下半身は太く大きな四本脚、上半身は人間の男性のような体だが、顔は酷く醜い不気味な容姿をしている化け物だった。

『キヒヒまた馬鹿な人間が肝試しに来たな……』

化け物が廃工場から出てきた理由はただ一つ。肝試しに来た人間を捕食する為である。この廃工場に肝試しに来た存在は行方不明になると言う噂を餌に肝試しに来た人間を捕まえては毎晩捕食している。

今回も馬鹿な人間を捕食しようと肝試しに来た人間を首を動かしながら探していると、化け物はある方向を見ると同時に動かしていた首を止めた

『……………』

『なんだ……貴様は……』

化け物は自身の目の前に立っていた存在に驚きを隠せなかった。その存在は顔は悪鬼の様でいて、どこかスズメバチを思わせるデザインだった。

『……コール。』

「……る？ツ!？」

仮面の戦士から出た言葉に頭を傾げているとコールという仮面の戦士が持っていた銃により両腕が弾け飛んでしまった。

『グギャアアアアアッ!?!この!』

弾け飛んだ両腕の根元から血が吹き出し苦しんでいる化け物だったが、負けじと太く大きな四本足でコールを踏み潰そうとする。

『フッ』

しかし、化け物の攻撃はいとも簡単に躲かされてしまい尚且つお返しと言わんばかりに顔面に蹴りを叩き込まれてしまった。

蹴り飛ばされた化け物はそのまま地面に倒れ伏せてしまった。

『(なんなんだコイツは!?!はぐれ悪魔である俺をいとも簡単に!?!)』

化け物はいきなり現れ、両腕を吹き飛ばしたコールと呼ばれる仮面の戦士に恐怖を抱き、この場から一刻も早く逃げ出そうと立ち上がり、走り出した。

『……………』

しかし……………現実は無慈悲でありコールは銃にスタンプを装填しス
イツチを押し、トリガーを引いた。

必殺承認!

ホーネット!スタンプングバースト!

コールから逃げようとする化け物にオレンジ色の貫通弾を飛ばし、
化け物の身体を文字通り蜂の巣にした。

『ガッ!?!』

蜂の巣にされた化け物は断末魔をあげることなく、そのまま肉片と
なり辺り一面は血の海になってしまった。

『……………食い足りないな』

魔力の残穢はスズメバチのレリーフのスタンプに吸い込まれ、化け
物に対し素晴らしい残したコールは闇に紛れ、廃工場から消え去ってし
まった。

墮天使と戦闘、コールは激昂!?

「ふあ〜……寝みい……」

朝から眠そうに欠伸をしながら通学路を歩いていると

「眠そうだね、また悪魔狩りでもしてたの?」

後ろから声をかけられ、振り向くとそこに立っていたのは俺の幼なじみの鴉望あもろう はるか 悠ゆうだった。

「コールにやれって言われてな。」

「ご苦労さまです、そういえば最近墮天使達がこの街に現れてるらしいよ、狩崎さんが言ってた。」

「悪魔の次は墮天使かよ……三大勢力の奴らマジで……」

俺は心のそこから三大勢力の連中が嫌いだ、特に家族を殺したあの悪魔共は自分の手で殺すと決めている程に。

「竜胆君、怖い顔してる、ほらスマイルスマイル!」

そうこうしているうち学校に着き俺たちはクラスが別々なので別れる。

一誠の奴に彼女が出来たって話以外

特に学校では何もなかったんでカット

三日後

俺は悠の買い出しに付き合っていた、日はすっかり暮れ、帰路に着いていた。突然近くの公園から嫌な気配を感じ、向かうと黒い翼を生やした女と、血を流し倒れている一誠がいた。

『墮天使力……ヤルゾ、相棒。』

「悠、先帰ってろ、あと狩崎さんにこの事伝えとけ。」

「わかった! 頑張ってるね!」

悠は公園から離れ、俺は一誠の元に向かう。

「脈は無い……こんだけの出血量じゃ、そりゃ死ぬわな。」

「あら? 人間? こんな所でなにをしているのかしら?」

「黙れクソ鳥、単刀直入に聞く、テメエがコイツを殺したのか?」

「ええ、そうよ、何か悪かったかしら?」

「そうか……なら、殺されても文句は言えねえよな?」

俺は腰にドライバーを装着し、懐からスズメバチのレリーフの入ったスタンプを取り出し、スタンプを起動する、すると足元に契約書のような物と頭上に巨大なバイスタンプが現れ、契約書に俺の名前を記す。

トレードドライバー！

ホーネット！

左手に持ったスタンプをトレードドライバーの左側に位置する、オーインジエクターに押印する、するとオーインジエクターに逆さまの状態でスズメバチが押印される、そしてスタンプを右手に持ち替え、トレードドライバーの右側のバイスタンプスロットに横刺しでセットする、すると待機音が流れ始める。

do you bet? do you bet? do you bet?

そして横刺しのスタンプを立てるかのようにロール操作をし、足元の契約書ごと、スタンプは俺を押印する。

「変身……」

Trade up!

戦略！契約！悪魔囁く！一か八か！

仮面ライダー！コール！（コール！）

bet the soul

「貴様……神器か……？」

「んな、玩具と一緒にすんな、きつさと決めたいんでな、ケリつける……」

俺は腰に帯刀していた、デュアルサイドバスターをブレードモードからガンモードに変え、クソ鳥に撃つ

「人間が！イキがるな！」

女が槍を投げってくるが、パンチひとつで破壊し、そのままクソ鳥にカウンターの一撃を食らわせた、すると、クソ鳥は落ちてきたので、俺はバイスタンプスロットを倒し、また立てる、そして俺は背中からスズメバチの翅を生やし空へと飛び、クソ鳥に向かって飛び蹴りの体勢を取る、すると左足がスズメバチの針の様になり、音速を超えた一撃

でクソ鳥を貫いた。

「これで終わりだ」

ホーネット！スタンピングファイニッシュ！

「チツ……手応えが殆どなかった……ギリギリで逃げたか……運の良
い奴だ……それよりも……」

俺は亡骸となってしまった友へ視線を送る。

「一誠、お前の仇は命を懸けて撃つてやる、まあ、天国行けるなら達者
でな……ツ!？」

俺が一誠に吊いの言葉を掛けていると、突然魔法陣が現れ、そこか
ら紅髪の女が現れた……この気配悪魔か……しかも純血と来たか
……

「あら、あなたがやったの？」

飄々と聞いてくるクソ悪魔。

「そうだ……と言ったら？」

「この街の領主として、あなたを捕まえる必要があるわね。」

「ほお……悪魔如きが俺を捕まえる？中々面白いことを言うな、ハツ
キリ言おう、お前じゃ俺を捕まえる事は出来ない。」

俺はありったけの殺気をクソ悪魔に向かって放ち、威嚇する。

「つ!？あ、あなた何者？こんなの普通の悪魔が出せる殺気じゃない
……」

「勘違いするな、俺は人間だ、それと、聞いた事あるだろ？化け物を狩
る、仮面の戦士の噂をソイツが俺だ。」

「に、人間……う、嘘よ、その纏ってるオーラ、悪魔のものと同じ……
「嘘だと思えばなら勝手にしろ、俺は帰る、じゃあな」

「ま、待ちなさいー!」

クソ悪魔が後ろから制止してくるが、俺はお構い無しに地面を撃ち
土煙を起こし、その隙に逃げる様にその場を去った。

家に着くと悠が俺を出迎えてくれた。

「竜胆君、大丈夫だった？」

「ああ、クソ悪魔に少し絡まれた位だ。」

「それって竜胆君の家族を殺した悪魔？」

「いいや、多分違う……だが、純血の連中だったから、近い存在の可能性はある。」

「恐らく、君が会ったのはグレモリー家の悪魔だろう。」

地下室の階段から全身が黒い服に身を包み、黒と白で塗り分けた覆面をした男 狩崎さんこと狩崎かりざき 真澄ますみが現れた。

「グレモリー家？それって凄い悪魔なんですか？狩崎さん。」

悪魔の知識があまりない悠が割って質問をする。

「かつて、ソロモン王が封印した72体の悪魔、またはソロモン王が使役する悪魔とか色々と言説はあるが、早い話聖書に登場する悪魔って覚えとけ。」

「竜胆君の言う通りだ、その72柱の1人それがグレモリー、今回竜胆君が会った悪魔だ。」

「それにしてもどこで見ってたんです？」

「ライダーシステムには、スペックのグレードアップする為に戦闘映像や戦闘データの記録する機能が付いている、その時の映像を私は見ていたんだ。」

「なるほど、それにしても……腹減ったな……」

「フフん、お腹を空かせて帰ってくると思ってご飯作っておいたよ！

狩崎さんも食べます？」

「ああ、是非頂こう。」

俺達は夕食と洒落込むのだった。

設定資料

??契^{ちぎり} 竜胆^{りんどう}／仮面ライダーコール

年齢 17歳

性別 男

身長 179cm

誕生日 8月31日

好きな事／好きなもの 睡眠 小説 悠の作った料理

対三大勢力組織 ウィークエンドに所属する本作の主人公。

とある理由から三大勢力（特に悪魔）の事を嫌っており、行く宛ての無く彷徨っていた所を鴉望 悠に保護された。

常にクールな性格をしており、何を考えているのか分からないと言われることが多い。

悪魔の事を嫌っては居るが、人の心に潜む悪魔に対しては特にこれと言った感情は抱いて居ない様子で、自身の悪魔 コールが相棒と呼んでも特に嫌がる様子は無い。

とある悪魔への復讐から仮面ライダーコールとして戦っている

??コール

年齢 ??歳

性別 男

身長 ???cm

誕生日 1月1日（竜胆との契約日）

好きな事／好きなもの 賭け事

竜胆の心の闇から生まれた悪魔。

ギャンブルが好きな性格の持ち主で、竜胆と時たま賭けの勝負をしていたりする。

どこかカタコトな口調で喋り、契約を結んでから日が浅い、また竜胆の過去を知っており、竜胆の復讐を手伝う為に力を貸している。

??鴉望^{あもう はるか} 悠

年齢 17歳

性別 女

身長 169cm

誕生日 11月11日

好きな事／好きなもの 竜胆 料理

ウイークエンドの構成員の一人にして本作のヒロイン。

世にも珍しい虹彩異色症を患っており、右目が黒く、左目が金色になっっている、また記憶喪失も患っており、家族に関する記憶が無く、気が付いたら狩崎の元に居たとのこと。

竜胆曰く幼なじみとのことらしいが本人は覚えてない。

竜胆の良き理解者であり、悪魔狩りを続ける竜胆の事を誰よりも気にかけている。

??くどう久遠 たつみ竜己

年齢 27歳

性別 男

身長 186cm

誕生日 4月17日

好きな事／好きなもの 甘いもの

ウイークエンドでの竜胆や悠の先輩にあたる人物。

正義感が強く、竜胆や悠からの信頼が厚い。

どう言った経緯でウイークエンドに身を置いているのかは不明。

??あしろ亞城 たまき環

年齢 17歳

性別 女

身長 165cm

誕生日 3月18日

好きな事／好きなもの 悠の料理 歌

もう一人の本作のヒロイン、便利屋を営んでおり、学生でありながら警察などとも顔見知り。

??^{かりざき}狩崎 真澄^{ますみ}

年齢 ?? 歳

性別 男

身長 ??? cm

誕生日 ??月??日

好きな事／好きなもの 不明

ウィークエンドの代表にして、ライダーシステムの開発者。

三大勢力から狙われており、基本的な情報から姿まで隠しており、その素顔を知るものは組織の中でも指折りの人数のみだと言われている。

嘗てのとある過ちから、竜胆と悠のことを実の子どものように接している。

正史の狩崎 真澄と異なり全身の火傷は無く、さらには息子も存在していない。